江陵、終盤に集中打

帯大谷に粘り勝つ

◇Bブロック▽準決勝（29日）

江　陵	0 0 1 0 0 0 0 0 3 2	16
帯大谷	0 0 0 0 0 0 0 1 0 0	1

▽三塁打＝古谷（江）
▽二塁打＝平井、国方、大井、酒井（江）

江陵は三回2死から古谷が中前打で出塁し、国方が右中間を破る適時二塁打を放って先制した。七回に同点とされたが、八回に古谷の中前打を皮切りに、酒井の左越え適時二塁打など5安打で3得点して勝ち越した。九回にも古谷がこの試合3安打目となる左中間を破る適時三塁打を放つなど、ダメ押しの2点を追加した。先発の古谷は、ストレートの制球に苦しんだが、スライダーとカーブを主体に135球を投げ、被安打4、5奪三振で完投勝利した。

帯大谷は1点を追う七回、宇野が中前打で出塁し、河瀬の犠打、鹿野の投ゴロで三進、長谷川の三ゴロが敵失を誘う間に生還して同点としたが、終盤に突き放された。先発の小田は6回を1失点、継投した西山、吉田が攻略された。

【Bブロック準決勝・江陵―帯大谷】完投勝利を収め喜ぶ江陵の古谷優人（左）

【江　陵】

		打	安	点	振	球
①	古谷	5	3	1	0	0
④	国方	4	1	1	0	1
⑥	佐藤	4	2	1	0	1
⑧	酒井	5	1	1	2	0
⑦	工藤	5	1	1	0	0
⑨	平井	4	2	0	1	0
③	中村	4	0	0	0	0
⑤	高橋	3	1	0	0	1
5	冨田	0	0	0	0	0
②	大井	4	1	0	1	0
犠	盗	併	残	失		
0	0	2	2	8	2	
		38	12	5	4	3

【帯大谷】

		打	安	点	振	球
⑥	加藤	2	0	0	1	2
⑨	奥平	3	1	0	0	0
⑧	中山	3	1	0	0	0
③	山田	3	0	0	1	1
⑦	宇野	3	1	0	1	1
②	河瀬	2	0	0	0	1
⑤	鹿野	4	0	0	1	0
④	長谷川	3	0	0	0	0
①	小田	1	0	0	1	0
H 1	石田	1	1	0	0	0
1	西山	1	0	0	0	0
1	吉田	0	0	0	0	0
犠	盗	併	残	失		
3	0	1	6	1		
		26	4	0	5	5

	回	者	球数	安	振	球	責
古谷	9	34	135	4	5	5	0
小田	6	23	81	4	2	2	1
西山	1⅓	10	38	6	2	0	2
吉田	1⅔	8	26	2	0	1	2

古谷「きょうは60点」

変化球で強打線を攻略

プロ11球団の30人を超えるスカウトが見守る中、江陵の左腕エース古谷が今夏の支部予選初登板を果たした。古谷は「きょうはストレートの制球が悪かったので（自己採点は）60点ぐらい」とし、「家に帰ってきょうの試合のビデオを見て、悪かった点を反省したい」と笑顔はなかった。

帯大谷打線が速球対策に時間を割いてこの試合に臨んでいたことは知っており、「打たれたくないと思って力んでしまった」。だが、序盤は制球に苦しむも、回を重ねるごとにピッチングを修正。ストレートを減らし、スライダーとカーブを主体とする投球に切り替えた。球種は、ほかにもフォークとチェンジアップがあり、「きょうは自分の武器であるチェンジアップを使わずに抑えられたのは自信になった」と胸を張った。

対戦前から接戦になると予想された難敵の帯大谷を終盤の集中打で撃破したが、谷本献悟監督は「ガッツポーズは（気持ちに）隙が生まれるのでチームで禁止している。一戦一戦、気を緩めずに戦いたい」と代表決定戦を見据えていた。

野球部の経験「人生の宝」

帯大谷・岩野主将

○…帯大谷は三回に先制

池田 芽室

◇Aブロック▽準決勝（29日）

芽　室	0 0 0 0 0 0 1 0 0 0	1
池　田	0 0 4 0 0 0 0 1 ×	5